

地域おこし協力隊が 三原で過ごす日々

みはライフ!

市外から移住して来た9人の隊員が、地域課題の解決に向けて活動中!



今月の担当は
三原 一哲
です!



【出身】京都市
【趣味】読書、登山、キャンプ、旅行
【活動エリア】本町地区を中心とする市内全域
【活動テーマ】空き家などの遊休資産を活用した観光資源・拠点の創出



▲半どん夜市マルシェ

地域おこし協力隊の活動は市公式noteで!



☎ 地域企画課
☎ 0848-67-6011



▲「おかつて」
Instagram

も引き続き楽しめる地域・場所づくりを続けていきます!

「おかつて」は地域に開かれたシェアキッチンとして、飲食店やワークショップの教室などにチャレンジする人へ、場所を提供するためにオープンしました。オープンングイベントとして、三原の夏の風物詩・半どん夜市で「半どん夜市マルシェ」を開催するなど、本町のにぎわいづくりに励んでいます。残る任期も引き続き楽しめる地域・場所づくりを続けていきます!

「みんなが楽しめる場所づくりに挑戦」

瀬戸内に惹かれて三原へ移住して一年半。地域おこし協力隊の活動期間は折り返しです。

令和6年の秋から本町三丁目にある空き家の古民家を改修し始め、令和7年5月にシェアキッチン「まちのおだいどころおかつて」を完成させました。

あんしん通信

（ ） 事故や犯罪、ゼロカーボンやごみに関する情報など、生活に役立つ情報をお届けします。



令和7年のSNS型投資詐欺・SNS型ロマンス詐欺発生状況

● 広島県内 ()は前月比
発生件数：149件 (+26件)
被害総額：約11億9,164万円 (+1億6,515万円)

● 三原警察署管内
発生件数：3件 (+0件)
被害総額：約827万円 (+0円)

※令和7年6月末。

他の取り組み事例

- 白熱電球 (54W)
→ 電球型LEDランプ (9W)
節約額・・・約2,790円/年
CO₂削減量・・・43.9kg/年
- 太陽光発電設備の設置
節約額・・・約8万990円/年
CO₂削減量・・・1,275kg/年

☎ 生活環境課 ☎ 0848-67-6194 FAX 0848-64-4103

▶ 10月号から新しいコーナーが始まります!お楽しみに! ▶

【その12】

脱炭素に向けた暮らし

宅配ボックスを活用して 荷物の再配達をなくそう

インターネットを利用した通信販売などの普及により、生活に欠かせない便利な宅配サービス。国土交通省によると、宅配便の取扱個数は、平成22年度は約32億個でしたが、令和5年度は約50億個にのぼり、約12個に1個は受取人不在を理由に、再配達で届けられています。

再配達で使われるトラックからは、地球温暖化の原因の一つとされる二酸化炭素が排出されます。受取日時の指定、置き配・宅配ボックスの利用など、1回で受け取ることによって、1世帯あたり年間7kgの二酸化炭素を削減できます。私たち一人一人が、暮らし方を少し工夫して「変える」ことが必要です。市の補助金を活用して宅配ボックスや太陽光発電設備を導入し、脱炭素につながる暮らしに取り組みましょう。

補助金の詳細はこちら



◀ 市庁



ともに、食卓から
考えてみよう

全国的に「令和の米騒動」ともいわれる米の価格の高騰が話題となっています。農林水産省は備蓄米を市場に放出するなどの対策を講じ、コラム執筆時点の7月では、最も高騰したときよりは幾分落ち着きを見せていますが、それでも、家計にとっては厳しい状況が続いています。しかし、米の価格について考える時、忘れてはならないのが、その米を生産してくださる農家の皆さんの存在です。雨風の中や真夏の炎天下などで農作業をし、私たちの食を支えてくださる皆さんに、心から感謝と敬意を表します。

農業の現場は、さまざまな課題を抱えています。担い手の高齢化や不足など、農業を続けること自体が困難になっている地域もあります。市では、地域計画に基づき、農地の集積やスマート農業の導入など、農業者の所得向上と持続可能な取り組みを進めています。

また、有害鳥獣による被害も深刻です。イノシシやシカ、サルなどによる農作物への影響で「せっかく育てた作物が荒らさ



▲米を収穫する農家(大和町)

れる」という声を、私自身も何度も聞いてきました。

この問題に対し、市では、令和7年度から「有害鳥獣対策実施隊」を独自に立ち上げました。約70人が、地域の実情に応じて現場で活動してくださっています。対策は、「有害鳥獣が出にくい環境づくり」「防護柵などの設置」「適切な捕獲」の三本柱を一体的に進めることが重要です。地域と連携しながら、しっかりとした体制を整えていきます。

米は、多くの手間と時間がかかって初めて、私たちの食卓に届きます。「令和の米騒動」をきっかけに、食の背景や地域の農業について、見つめ直す機会にしていきましょう。



▲市HP



ニュージーランド出身の
国際交流員コラム

● Vol.24 ●



CIR(国際交流員)
ジェイク・ロコップ



ニュージーランドに生息する鳥「ケア」

「Bird of the Year」コンテストの推し鳥

ニュージーランドでは毎年、その年で最も人気のある鳥を決める「Bird of the Year (今年の鳥)」コンテストが開催されます。令和7年の投票期間は15日(月)～28日(日)です。

投票期間中は、好きな鳥を優勝させるために、さまざまな活動が行われます。企業や団体が自社製品やイベントを通じてPRするほか、過去にはアメリカのテレビ番組の司会者が積極的にPRした鳥が優勝したこともありました。

また、このコンテストには、ニュージーランドの在来種や生息地が直面している環境問題に関心を持ってもらう目的があります。この機会に、公式サイトでニュージーランドの鳥たちの魅力に触れて、在来種やその環境を大切にするニュージーランドの取り組みを知ってもらえると嬉しいです。

知ってる?

ニュージーランド

私が一番好きな鳥「Kea」

ケアは、ニュージーランドの南島にのみ生息する緑色の鳥。好奇心旺盛で、人間を怖がらず、近寄ってくることもあります。しかしとても賢くて、人間の持ち物や車にいたずらすることも。愛らしい見た目とのギャップも魅力の一つです。

Information for foreign
nationals in Mihara

◀ CIRが三原の
魅力などを発信中! ▶

Instagram & Facebook



◀ Instagram

Facebook ▶



●多言語相談窓口(市役所本庁4階)

問 経営企画課(TEL 0848-67-6270 FAX 0848-64-7101)